

各位

上場会社名 株式会社 小島鐵工所
代表者 代表取締役社長 児玉 正蔵
(コード番号 6112)
問合せ先責任者 取締役執行役員経理部長 田中 教司
(TEL 027-343-1511)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成29年1月11日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成29年11月期通期個別業績予想数値の修正(平成28年12月1日～平成29年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,800	210	105	52.5	0.50
今回修正予想(B)	1,714	△122	△105	△98	△9.89
増減額(B-A)	△86	△124	△115	△103	
増減率(%)	△4.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成28年11月期)	1,540	△65	△49	△69	△6.91

修正の理由

当社の主製品である大型油圧プレス機は、形状、能力、機能のほか、納期、一台当たりの金額もそれぞれ異なる個別受注生産でありますので、月単位での売上は一定しておらず、季節的変動によるものでもなく、納期的、金額的なバラツキにより売上の変動が大きく、また、当社製品が大型機械ゆえ、設計・生産着手から納品・据付まで平均して1年程度を要するため、受注から売上計上まで相当期間のズレが生じてしまうのが当社事業の特性であります。

このような事業の特性を持つ当社におきまして、売上状況につきましては、売上会計処理につき一部工事進行基準を適用いたしておりますが、当117期通期における売上高は、受注残の消化に努め、売上総額では、前回予想数値18億円を若干下回りましたが、前期15億40百万円を上回る17億14百万円の計上見込みであります。

利益状況につきましては、引き続き原価低減や経費全般に亘る節減に努めているものの、同業者間競争(特に価格競争)が激しく、予期した以上に想定通りの営業展開に苦慮する状況が続いたことや、固定費の膨らみを吸収できる売上高水準にまで至らず、誠に残念であります。通期におきましては、当期営業損失1億22百万円、当期経常損失1億5百万円及び当期純損失98百万円の計上となる見込みであります。

受注状況につきましては、当期の受注高は、当第2四半期までは順調な足取りであった受注展開も、厳しい受注競争から、当第3四半期以降、足踏み状況がみられましたが、総体では、前期15億37百万円を上回る16億13百万円の受注を確保できました。受注残高につきましては、受注伸び悩みから、前期末11億44百万円に至らず、10億43百万円に止まっております。現在、同業者間競争等厳しい受注環境下にありましても、鍛造業界向け大型物件の交渉も順調に進展しているのを始め、引き合いが浮上している大型・中型案件の成約に向け努力し、一層の受注増加を目指し、翌期の売上増加に期待をかけているところでございます。

* 上記予想は、現時点に於いて、入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって、予想数値と異なる結果になる可能性があります。

以上